



# ふゆのたのしみ



## しぜんがいっぱいのえほん



『ふゆめがっしょうだん』 富成忠夫／写真 茂木透／写真 長新太／文  
(福音館書店)

ふゆのきのめのしゃしんは、どこかのだれかさんに にているよう。  
ふゆのこうえんで さがしてみましよう。みんなおもしろいかおをして、はるの  
めぶきを まっています。

『おかしなゆきふしぎなこおり』 片平孝／写真・文 (ポプラ社)

ゆきがふった日はそとにでかけてみよう。いろいろなかたちのゆきやこおり  
をみられるよ。木やはっぱにくっついた しも、とけかけて、おもちのようになっ  
た ゆき。ゆきとこおりのふしぎな形は、みんな しゃしんで みられるよ。

『しもばしらしゃくしゃく』 ほりかわりまこ／さく (福音館書店)

ゆうちゃんは、まいにちこうえんをとおります。とくべつにさむいけさは、じめ  
んをふむと、いつもとちがうおとがします。しゃく しゃく しゃく。

しもばしらです。しもばしらは かだんにもたっています。「つめたい! きらき  
らしていて、ガラスみたいね。」

ゆうちゃんが、しもばしらをはっけんしたようすを おかあさんは、やさしくみ  
まもります。



## ゆきがいっぱいのえほん



『ゆき』 はたこうしろう／絵（ひさかたチャイルド）

♪ゆきや こんこ あられや こんこ。

あの「ゆき」のうたが えほんになりました。ゆきのつめたさと、ゆきあそびのよろこびや、たのしさをぜんしんであらわしています。いっぱいあそんだあとは、あたたかいこたつでゆっくり。ふゆならではのすごしかたです。

『だんだんやまのそりすべり』あまんきみこ／作 西村繁男／絵

（福音館書店）

あかいフードのいっちゃんは、そりすべりがこわくてできません。そんなとき、こぎつねのいっちゃんにであいます。こぎつねもやっぱりこわくてすべれない、といいます。そこで、ふたりは いっしょに けいこすることにしたのです。

『はたらきもののじょせつしゃけいていー』

ばーじにあ・リー・ばーとん／ぶんとえ いしいももこ／やく

（福音館書店）

けいていーは、きゃたびらのついた あかいりっぱなとらくたーです。

ふゆがくると、けいていーは じょせつきをつけました。やがて、おおゆきがふり、まちは、すっぽりゆきのしたにかくれてしまいました。さあ、けいていーのでばんです。けいていーは、まちじゅうのこまったひとたちのために、ゆきをかきのけて、ぜんしんし、みちをつけていきました。くたびれていても、とちゅうでやめたりなんか、けっしてしません…… やめるもんですか。

こんなほんもあるよ！



『ゆきのひ』エズラ＝ジャック＝キーツ／ぶん・え きじまはじめ／やく（偕成社）

『ゆき』 ユリ・シュルヴィッツ／作 さくまゆみこ／訳（あすなろ書房）



## セーターのおはなし

～ふゆのおしゃれをたのしむには～



### 『ことしのセーター』 石川えりこ／さく・え（福音館書店）

おねえちゃんと、わたしと、おとうとは、きょねんのセーターをきてみました。みんなちいさくなくなっていました。おかあさんとおばあちゃんは、みんなほどこいて、セーターをあみなおしてくれます。セーターのとじめをていねいにはずして ばらばらになったセーターを、みんなでほどこいて けいとにしました。やかんのゆげをけいとにあてると、ふるいけいとは ふかふかになりました。

それから、おかあさんとおばあちゃんは、ずっとけいとをあみつづけました。あみぼうはまるで まほうをかけられ、いきているみたいにみえました。できあがり、たのしみです。

### 『セーターになりたかった毛糸玉』 津田直美／著（ブロンズ新社）

10 コの赤い毛糸玉たちは、毛糸と生まれたからには一度はなってみたいと、セーターになることにあこがれていました。そして誰かが買ってくれるのをずっと待っていました。

そんなある日、おばあさんが10コの毛糸玉を買って、セーターを編みはじめました。ところができあがると毛糸玉が1コ余ってしまったのです。

### 『ちょろりんのすてきなセーター』 降矢なな／さく・え（福音館書店）

ちょろりんは さむがりやの とかげのこ。あるひ、ようひんてんで はるのはらっぱいろをした セーターをみつけて、ほしくてたまらなくなりました。でも こづかいが たりません。そこで ちょろりんは じいちゃんの しごとを てつだって おかねを もらうことにしました。ふたりは さっそく しごとにとりかかりました。53この ランプのガラスを あさまでに ていねいにみがかなくてはなりません。ちょろりんは、たいへんな しごとを やりとげて、あのはらっぱいろの セーターを かうことができるのでしょうか。



## おふろにはいろいろ

～ゆぶねにつかってあたたまろう～



### 『もりのおふろ』 西村敏雄／さく（福音館書店）

もりの おくで おふろが わいています。

さいしょにやってきたのはライオン。ライオンは まずからだをあらいます。そこへ ゾウがやってきたので、せなかを あらってもらいました。つぎに ワニがやってきたので、ゾウはせなかをあらってもらいました。こうして どうぶつたちが つぎからつぎへとやってきて、ごしごし しゅっしゅ、ごしごし しゅっしゅ。おふろへはいるのが たのしみです。

### 『おふろだいすき』 松岡享子／作 林明子／絵（福音館書店）

ぼく、おふろだいすき。

おふろへはいるときは、いつも、あひるのプッカをつれていく。プッカとおふろに はいっていると、おふろのそこから、おおきなかめが でてきたんだ。それからペンギンや、オットセイや、かばまで。オットセイのくちからはシャボンだまがたくさんでて、そのかけらで、ぼくはよくふとったかばのからだをあらった。でっかいかばを すっかりあらうと、こんどはくじらが、ゆうだちのようなシャワーを かけてくれたんだ。



## ふゆのおよばれ ～たのしいおちゃかい～



### 『もりのおくのおちゃかいへ』 みやこしあきこ／著（偕成社）

おとうさんをおいかけて、もりのおこうのおばあちゃんのいえに、ケーキをとどけにいったキッコちゃん。もりのなかの みしらぬいえをのぞいてみると、そこでは どうぶつたちのおちゃかいが はじまろうとしていました。

どうぶつたちは、キッコちゃんを あたらしいおきやくさんとよんで、あたたかく もてなしてくれたのです。

毎月**23**日は

さいたま市 子ども読書の日



れい わ ねん がつはっこう  
令和5年2月発行

へんしゅう はっこう しりつはる の と しょかん  
編集・発行：さいたま市立春野図書館